

2013 年度から 2 つの研究部会（Fit for Work 研究部会と健康経済・経営・会計研究部会）の活動を開始します。研究部会の概要は、次のとおりです。

#### ①Fit for Work 研究部会

日本は、既に労働年齢人口の高齢化と不健康化の問題に直面しており、高齢や障害による失業者の増加が、労働者の身体的及び精神的負担を増大させ、2035 年までに約 30%の人口が総医療費の 70%を消費するとの推計も出されている。このため日本では、労働を継続し、社会に貢献するという労働者個々の能力を引き延ばす必要があるが、心血管疾患及び癌がもたらす影響への対応、さらに、精神衛生問題の有病率の急激な上昇への対処のために多く取組みがなされているのに対して、死亡率が低い慢性疾患による莫大な負担への対応は依然として明瞭ではなく、特に筋骨格障害（MSD）の疫学や経済損失などの社会に及ぼす影響に関する研究は、日本では十二分ではない。このため、本学会は、Fit for Work 研究部会を発足させ、筋骨格系疾患が社会に及ぼす影響と就労維持・復帰にむけた課題について、様々な分野の専門家の参加を得て研究結果をまとめ、具体的な改善策を提言していく、研究部会を創設した。産業医科大学公衆衛生学教室教授 松田晋哉氏（本会副理事長）を部会長とし、有識者をメンバーとする研究部会を 2013 年から開始する。第 1 回研究部会を 9 月 27 日に開催した。

#### ②健康経済・経営・会計研究部会

産業保健あるいは健康保険組合などの現場レベルで行われている従業員に対する健康支援の取り組みについて、経営の視点から評価し経営上の課題として取り組めるように、主としてマネジメント層に、従業員の健康と生産性との関係について認識を深めてもらう手段を検討するとともに、実際に企業や社会において現場レベルの個別の取り組みをマネジメントレベルにまで引き上げる手段を明らかにすることを目的として、健康経営に取り組む実務家と研究者が、成功事例の報告と討議により情報の共有と取り組みの高度化を図る部会を創設した。第 1 回研究部会は 8 月 8 日に、第 2 回研究部会は 10 月 4 日に、第 3 回研究会は 12 月 5 日に開催した。